

領域	評価項目	実践事項	自己評価		学校関係者評価		
			学校の自己評価と改善策	評価	学校関係者評価委員のコメント	評価	
知 確かな学力の向上	1 学ぶ力の向上	(1) 学びの基礎・基本の定着 ・ 知識・技能の習得 ・ 学習習慣の定着 ・ 「めあてとまとめ」「ふりかえり」のある授業の推進	○教科指導における各場面で「めあてとまとめ」「ふりかえり」の場を設定し、学習事項のアウトプットをさせながら学習事項の定着を図った。 ○特別支援教育の視点を取り入れた支援を行いながら授業を展開することができた。 ○少人数ながら学力や取組状況に個人差があるため、一人一人に応じた支援が必要である。特別支援教育の視点を生かした授業の展開と環境整備をさらに図っていく必要がある。	B	B	・ 授業でも元気に対応し、先生と児童の受け答えができています	A
		(2) 主体的な学びの育成 ・ 複式指導の工夫・改善 ・ 「学び合い」のある授業の構築	○荒谷小の学びのスタイルを今の児童の実態に合わせて変化させながら、一人一人の学力向上のために取り組むことができた。また、授業の中で聞き合える力を育てるための指導法について研修を通して共通理解を図った。 ○児童の実態に応じた、学び合いと習熟の時間のバランス・軽重の付け方について継続して考える必要がある。	B			
		(3) M学習の充実 ・ M学習効果を高める準備・評価	○事前の連絡・調整において学習進度の調整を行ったり児童の実態に関する情報交換を行ったりすることで集合学習における学びを深めることができた。	A			
		(4) 特別支援教育の充実 ・ 個に応じた指導の推進	○本年度も児童一人一人のニーズに応じた支援の在り方について、関係機関と連携して協議・実施することができた。さらに協議する場面を増やし、より良い支援のための情報交換に努めたい。	A			

知 確かな学力の向上	2 ふれあい教育の促進	(1) キャリア教育の充実 ・ ねらいと方法の明確化	○コロナの影響を受けつつも可能な限り児童がふるさとに対する興味・関心や問題意識をもち、学んだことから再発見したり、発信したりすることができた。また、自然とのふれあいや栽培活動等の体験を充実させることができた。	A	・ 地域、自分の住んでいるところに興味をもち、進んで学ぶことができています。 ・ コロナで実施できなかった行事があり、応援隊の方が成果を見る機会がなかった。	A	
		(2) ふるさと教育の充実 ・ わくわく学習の推進及び協力者との連携 ・ C学習の計画的実践	○応援隊の方々にご協力いただき、充実した学習活動を展開することができた。児童はこれまでの上級生や自身の取組を参考にしながら学習に取り組んでいた。 ○コロナの影響で本年度実施できなかった行事の引継や共通理解をする確実にを行う必要がある。	B			A
	3 情報活用能力の育成	(1) 読書活動の推進	○「読書貯金通帳」「ファミリー読書週間」「こんな本読んだよ」「保護者及び職員による読み聞かせ」等を通して読書を推進する多様な活動が実施できた。	B		B	B
		(2) ICT活用・メディアリテラシーの育成	○リテラシーについては総合的な学習の時間を中心に具体的な場面で必要に応じたスキルを身に付けさせるようにしてきた。 ○ICT推進については、一人一端末の整備に向けた準備と教科・単元における効果的な活用の研修を行う必要がある。	B			